

平成20年度 科学研究費補助金（特別推進研究）
研究進捗評価結果

研究課題名	日韓米独中における3レベルの市民社会構造とガバナンスに関する総合的比較実証研究	研究代表者名 (所属・職)	辻中 豊（筑波大学・大学院人文社会科学研究所・教授）
-------	---	------------------	----------------------------

研究課題の総合的な評価

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

評価意見

<p>日本のデータベースの構築は着実に進められている。しかし、収集された日本のデータを利用した統計的な分析はあまり進んでおらず、せっかくのデータが生かされていないように思われる。具体的にどのような分析へつなげるのか、各国との比較を具体的にどのように進めるか、について明確ではない。</p> <p>また、「ガバナンス」の指標について、どのように測るのか、どのようなデータから評価するか、について不明確であり、海外比較をする際にも支障となる可能性がある。データの項目・内容を各国で共通に集めなければ、優れた海外比較は困難と思われる。</p> <p>海外の研究者については、「日本に興味を持つ研究者」ではなく、各国において「市民社会」や「地方政治の参加」に関する研究を行っている研究者と共同で研究を進めてほしい。</p> <p>さらに、海外との比較では、教会などを中心としたコミュニティが形成されている国もあり、各国の歴史・文化的な背景も考慮に入れる必要があると思われる。また、日本の市民社会という場合、その定義が明確でなく、町内会の多様性についても、質的な分析に取り組む必要がある。</p>
